

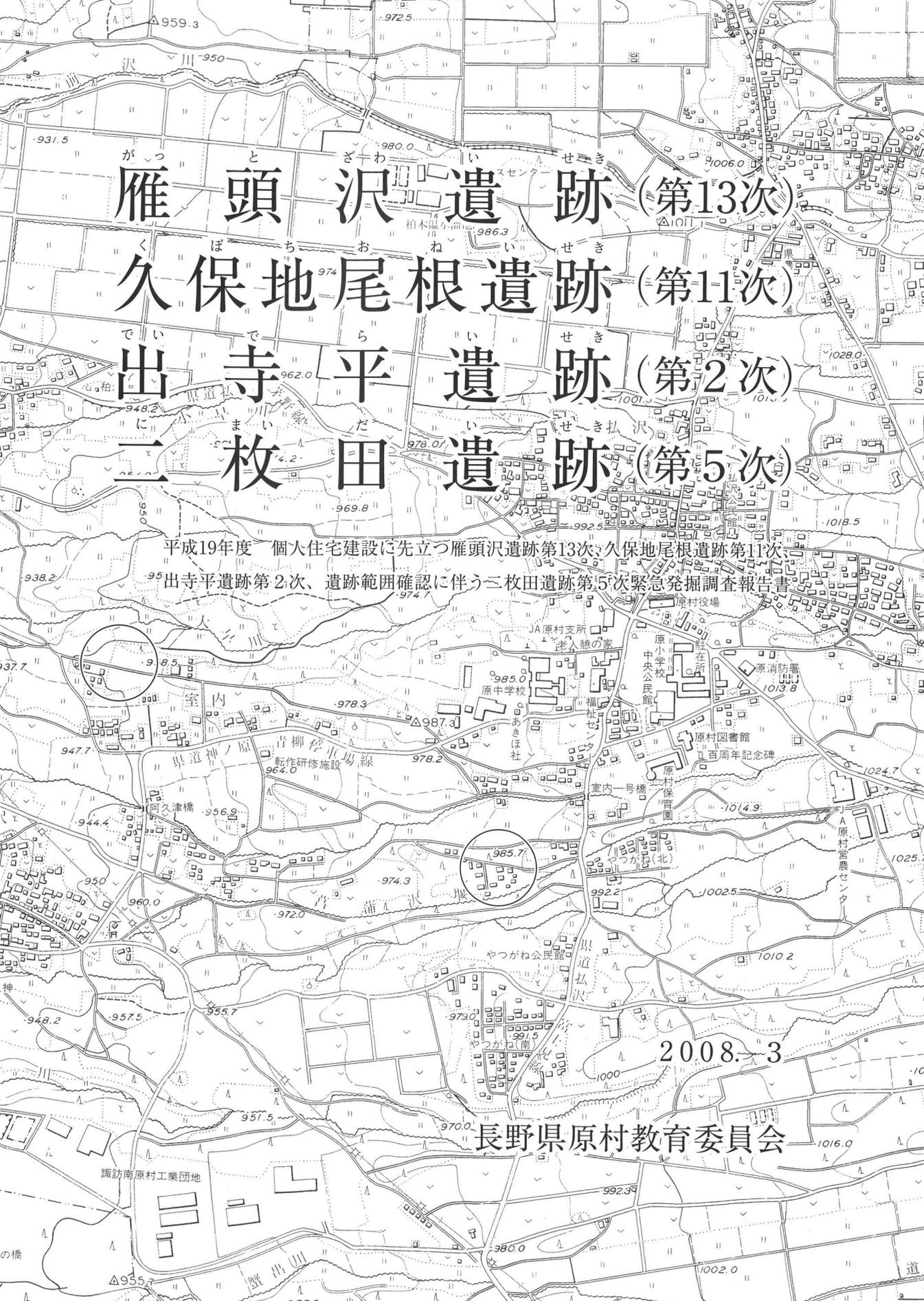
雁頭沢遺跡 (第13次)

久保地尾根遺跡 (第11次)

出寺平遺跡 (第2次)

二枚田遺跡 (第5次)

平成19年度 個人住宅建設に先立つ雁頭沢遺跡第13次、久保地尾根遺跡第11次、出寺平遺跡第2次、遺跡範囲確認に伴う二枚田遺跡第5次緊急発掘調査報告書



2008. 3

長野県原村教育委員会

諏訪南原村工業団地

の橋

道



## 序

このたび平成19年度に実施した雁頭沢・久保地尾根・出寺平・二枚田遺跡の発掘調査報告書を刊行することになりました。

発掘調査は、雁頭沢・久保地尾根・出寺平の3遺跡は個人住宅建設に先立つ緊急発掘調査、二枚田遺跡は遺跡の保護に係る範囲確認調査で、国庫から補助金交付を受けた原村教育委員会が実施したものであります。

雁頭沢遺跡は、すでに宅地造成が行われたところで遺物包含層は取り除かれており残念な結果でありました。

久保地尾根遺跡は、住宅の建て替えに伴う調査でありました。遺跡内においてこのような建て替えに係る発掘ははじめてで、当初考えていたほど遺跡の破壊はありませんでした。今後は住宅の建て替えにあたっても注意深く見守っていく必要性を痛感しています。

出寺平遺跡は、昨年度に調査した隣接地で遺跡の外縁部にあたります。住居址などの遺構が分布する範囲から外れており、破壊された範囲は最小限に留まりました。

二枚田遺跡は、遺跡の範囲が不明瞭である西側外縁部で開発計画が持ち上がり、遺跡範囲確認を行い遺跡から外れていることが明らかになりました。

調査した遺跡は、村道改良、個人住宅建設、県営圃場整備事業などの開発に先立ち緊急発掘調査を実施し記録保存をはかってきました。本年度調査で雁頭沢遺跡は13回目、久保地尾根遺跡は11回目、出寺平遺跡は2回目、二枚田遺跡は5回目を数えることとなります。このように数次におよぶ発掘調査に携わるたびに、それぞれの調査記録をつなぎ合わせ活用するとともに、貴重な文化遺産を後世に伝えていく責任を強く感じているところであります。

発掘調査にあたり、県教育委員会のご指導ならびに発掘調査にかかわる多くの皆様のご協力で深甚なる感謝を表する次第であります。また、発掘調査報告書刊行にいたる過程で、お世話をいただいた皆様にたいし厚くお礼申し上げます。

平成20年3月

原村教育委員会

教育長 望月 弘

## 例 言

- 1 本報告は、平成19年度個人住宅建設に先立ち実施した長野県諏訪郡原村室内区に所在する雁頭沢遺跡第13次、久保地尾根遺跡第11次、上里区に所在する出寺平遺跡第2次緊急発掘調査、中新田区に所在する二枚田遺跡第5次遺跡範囲確認調査の報告書である。
- 2 発掘調査は、国庫から発掘調査補助金交付を受けた原村教育委員会が、雁頭沢遺跡は平成19年6月15日から7月11日、久保地尾根遺跡は7月20日から25日、出寺平遺跡は平成19年9月20日から10月4日、二枚田遺跡は平成20年1月15日から3月18日にかけて実施した。整理作業は平成19年7月19日から同20年3月26日まで行った。
- 3 現場の発掘作業における記録・写真撮影は平出一治が行った。
- 4 図面等の整理は小林りえ、遺物の整理は鎌倉光弥・小島久美子が行い、石器の実測は株式会社シン技術コンサルに委託した。
- 5 図面の作成は小林りえ、執筆は平出一治が行った。
- 6 本調査の出土遺物、記録等はすべて原村教育委員会で保管している。  
なお、本調査関係資料に、雁頭沢遺跡は53、久保地尾根遺跡は57、出寺平遺跡は40、二枚田遺跡は67の原村遺跡番号を表記した。

発掘調査から報告書作成にわたって、ご指導・ご助言をいただいた多くの方々に厚く御礼申し上げる次第である。

## 目 次

序	
例言	
目次	
I 雁頭沢遺跡 第13次発掘調査	1
II 久保地尾根遺跡 第11次発掘調査	4
III 出寺平遺跡 第2次発掘調査	7
IV 二枚田遺跡 第5次遺跡範囲確認調査	9
調査組織	
報告書抄録	

# I 雁頭沢遺跡 第13次発掘調査

## 1 発掘調査に至る経過

建築工事届調査書で住宅建設の計画を知るところとなるが、たまたま予定地に雁頭沢遺跡（原村遺跡番号53）が存在していたため、その保護については関係者と数回にわたり協議を行った。

本来なら遺跡は現状のまま保存することが最も望ましいことであるが、住宅建設の要望は強く「記録保存やむなき」との結論に至り、平成19年度に緊急発掘調査を実施し記録保存をはかる方向で同意をみることができた。

その後も調査日程等の打ち合わせを行い、原村教育委員会は国庫から発掘調査補助金交付を受け、平成19年6月15日から7月11日に緊急発掘調査を実施した。

## 2 発掘調査の経過

平成19年6月15日 発掘準備をはじめ。現地で住宅建設位置を確認し、調査日程等の打ち合わせを行う。

27日 現地で重機使用の日程、調査方法の打ち合わせを行う。

7月6日 予定地の全景写真撮影、機材の点検、トレンチ設定を行う。

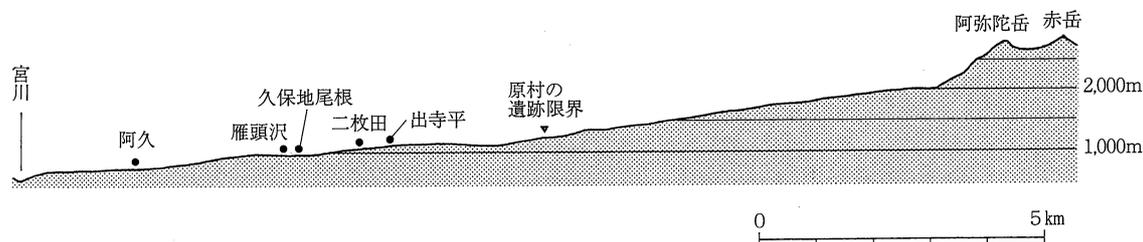
9日 重機でトレンチ1～3の掘削を行うが、すでに地山のローム層まで削平され遺物包含層は取り除かれていた。トレンチの写真撮影を行い、重機で埋め戻しを行う。

11日 機材の片付けを行い調査は終了する。

## 3 位置と環境

雁頭沢遺跡（原村遺跡番号53 第2図）は、長野県諏訪郡原村室内区に所在する。原村役場の西方約1kmという地理的条件に恵まれていることもあり宅地化が進んでいる。

この辺りは八ヶ岳西麓に位置し、東西に細長く発達した大小様々な尾根が幾筋も見られる。それらの尾根上から斜面には縄文時代と平安時代を中心とする数多い遺跡が点在している。

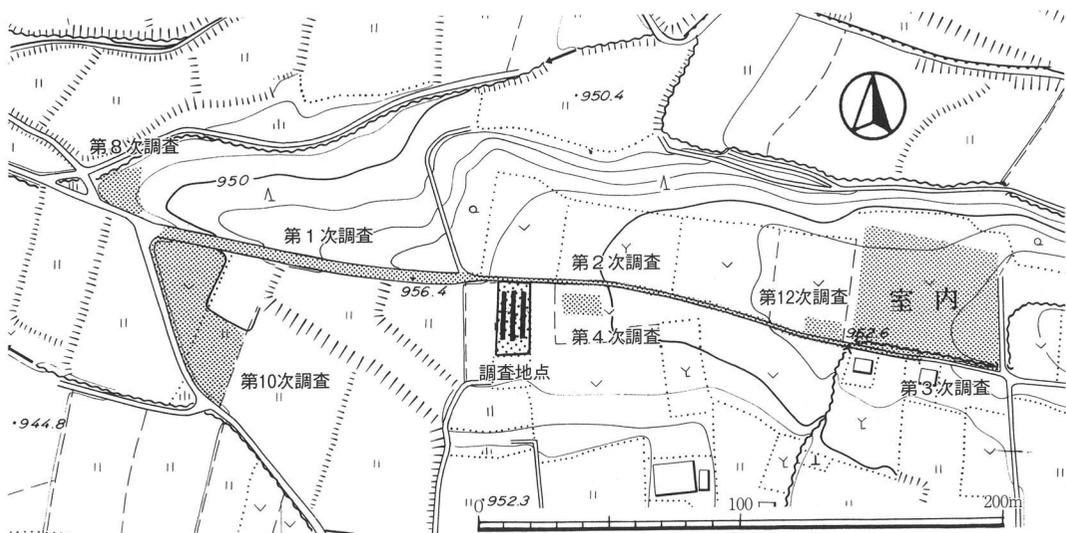


第1図 原村域の地形断面模式図（宮川－雁頭沢・久保地尾根・二枚田・出寺平－赤岳ライン）

その一つである本遺跡は、八ヶ岳から流下する阿久川と大早川により南と北を浸蝕された東西に細長い尾根上から南斜面に立地している。尾根上の平坦面は80mほどで、南の阿久川側は緩やかであるが、北の大早川側は急激な斜面である。標高は960m前後を測り、地目は宅地、普通畑、墓地、山林など多種多様である。



第2図 40 出寺平・53 雁頭沢・57 久保地尾根・67 二枚田遺跡位置図 (1 : 40,000)



第3図 雁頭沢遺跡発掘区域図・地形図 (1 : 2,500)

調査対象地は、尾根の先端部付近に辺り第4次発掘調査地点の西方、第10次調査地点の東方に位置する。両調査では遺構を検出するまでには至らなかったが、遺跡外縁部の一端を明らかにしている。

本遺跡の発掘調査は第13次を数えるが、昭和54年度に実施した村道改良事業を第1次調査、その後も開発は進み平成4年度からは緊急発掘調査が増加している。その結果、縄文時代中期初頭から中葉における集落址であることが明らかになっている。

## 4 調査方法と層序

対象地は第3図に示した住宅建設用地で、昭和40年代に宅地造成されたことを聞いているが詳しいことはわからない。造成後は普通畑として利用されていた。

調査は住宅の基礎（ほぼ南北方向）に合わせたトレンチ1～3を設定し、重機でローム層上面まで掘削したが、その巾はバケット巾の1.0mである。

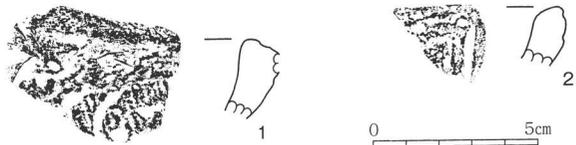
昭和40年代の宅地造成工事で、すでにハードローム層に達する削平が行われ遺物包含層は除去されていた。なお、削平後に盛土された黒褐色土中からも遺物の出土はなく調査は終了した。

土層は、前記したようにⅠ層は18～50cmの黒褐色土であるが削平後に盛土された攪乱層で、Ⅱ層は上面が削平されたハードローム層である。調査面積は59.3㎡である。

## 5 遺構と遺物

すでにローム層までに達する削平が行われていたことで、遺物・遺構を検出するまでには至らなかったが、造成された法面で縄文時代の土器破片2点を採集した。

土器は中期中葉期の小破片2点(第4図)で磨減が著しい。



第4図 雁頭沢遺跡土器拓影(1:2)

## 6 まとめ

尾根の先端部にあたる調査であったが、発掘調査はされないまま昭和30年頃に水田造成が行われ、その後昭和40年代に宅地造成されたところである。原村誌上巻に「水田造成工事の際に、縄文時代中期の藤内Ⅰ式の一括資料を発見している。」とあり、少なからず遺物の発見を期待し調査に着手したが、すでにローム層まで削平された状態で遺物包含層が除去されていて、遺物・遺構を検出するまでには至らず調査地点の性格を述べることはできない。

本遺跡は12次におよぶ発掘調査で、縄文時代中期初頭から中葉期における集落址であることが明らかになってきている。今後も開発は予想される地域であることから注意深く見守っていくことが必要である。

## Ⅱ 久保地尾根遺跡 第11次発掘調査

### 1 発掘調査に至る経過

建築工事届調査書で住宅建設の計画を知るところとなるが、たまたま予定地に久保地尾根遺跡（原村遺跡番号57）が存在していたため、その保護については関係者と数回にわたり協議を行った。

本来なら遺跡は現状のまま保存することが最も望ましいことであるが、住宅建設の要望は強く「記録保存やむなき」との結論に至り、平成19年度に緊急発掘調査を実施し記録保存をはかる方向で同意をみることができた。

その後も調査日程等の打ち合わせを行い、原村教育委員会は国庫から発掘調査補助金交付を受け、平成19年7月20日から25日に緊急発掘調査を実施した。

### 2 発掘調査の経過

平成19年7月20日 発掘準備をはじめめる。

23日 現地で住宅建設位置を確認し、重機使用の日程、調査方法の打ち合わせを行い、トレンチ設定を行う。

24日 重機でトレンチの掘削、引き続きトレンチ内の精査を行う。縄文時代中期の僅かな土器破片と石器が出土したが遺構を確認するまでには至らない。  
トレンチの観察、位置測量、写真撮影を行い、重機で埋め戻しを行う。

25日 機材の片付けを行い調査は終了する。

### 3 位置と環境

久保地尾根遺跡（原村遺跡番号57 第2図）は、長野県諏訪郡原村の室内区に所在する。県道弘沢・富士見線に接し、原村役場の南方約0.7kmという地理的条件に恵まれていることもあり、Iの雁頭沢遺跡同様に宅地化が進んでいる。

この辺りは八ヶ岳西麓に位置し、東西に細長く発達した大小様々な尾根が幾筋も見られる。それらの尾根上から斜面には縄文時代と平安時代を中心とする数多い遺跡が点在している。

その一つである本遺跡は、八ヶ岳から流下する菖蒲沢川と阿久川によって北を浸蝕された東西に細長い尾根上から南斜面に立地している。尾根上の平坦面は100mほどで、南は比較的緩やかな斜面であるが、北の阿久川側はきつい斜面となる。標高は997m前後を測り、地目は宅地、普通畑、墓地、山林、公園、道路、水路敷きと多種多様である。

調査対象地は、尾根上の平坦部から南に傾斜がはじまる辺りで、住居址を検出した第2次調査地点の北、住居址と小竪穴を検出した第5・10次調査地点の南方に位置することからみて、集落址に係る範囲にあるように思われたが、調査では遺構を確認するまでには至らなかった。

本遺跡の発掘調査は第11次を数えるが、埋壘が発見された昭和25年が第1次調査、その後も開発は進

み平成6年度からは緊急発掘調査が増加している。その結果、縄文時代中期後半期の集落址であることが明らかになっている。

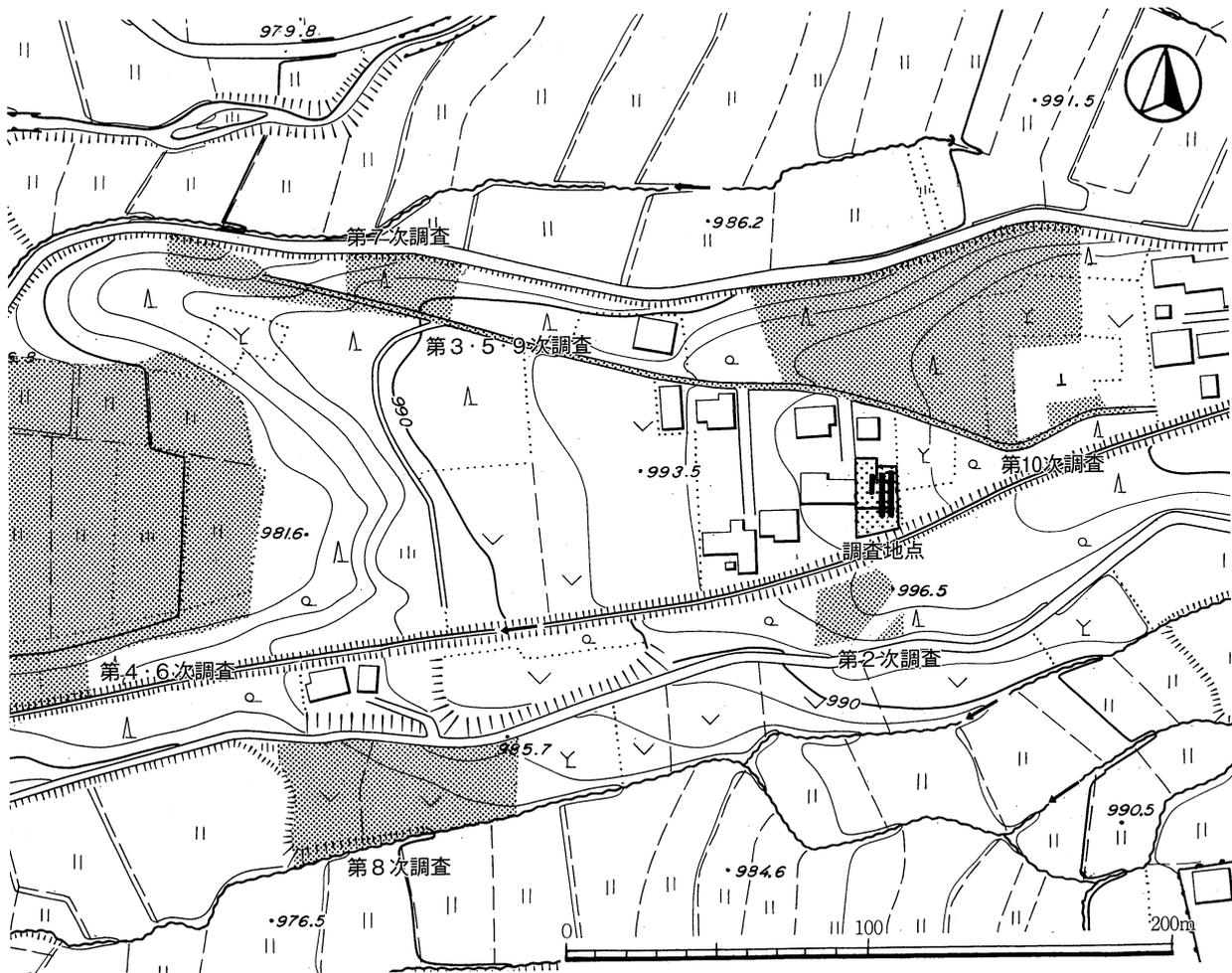
## 4 調査方法と層序

対象地は第5図に示した住宅建設用地であるが、昭和50年頃に建設された住宅を取り壊し、新たな建設である。したがって、遺跡の多くは破壊されているものと考えていたが、ローム層までは50cm前後であり、旧住宅の基礎による攪乱は40cm前後でローム層まで達していなかった。

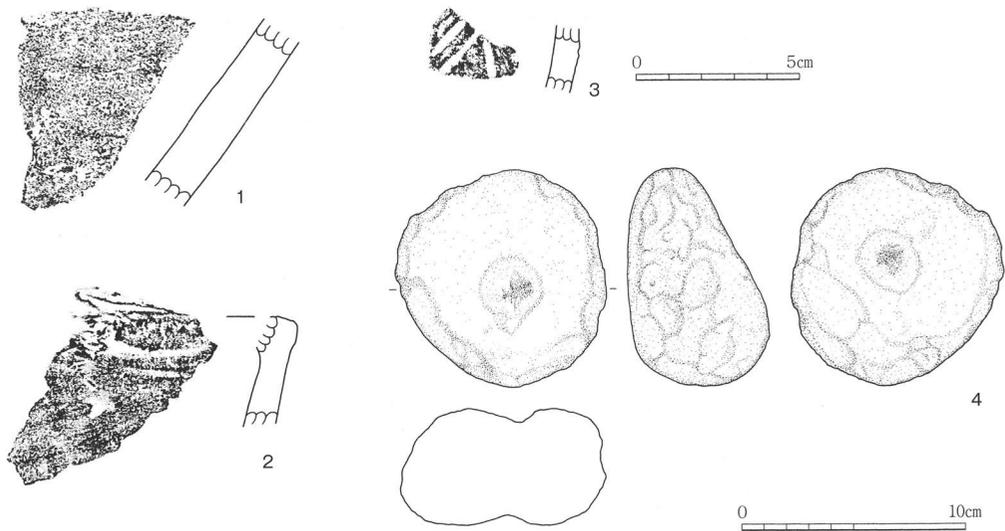
調査は住宅の基礎（ほぼ南北方向）に合わせたトレンチ1～3を設定し、重機でローム層上面まで掘削したが、その巾はバケット巾の1.0mである。

引き続き人力でトレンチ内の精査を行い遺物と遺構の検出につとめた。縄文時代中期の土器破片と石器が僅かに出土しただけで遺構を検出するまでに至らず調査は終了した。

土層は、Ⅰ層が表土で20cm前後の黒色土。Ⅱ層は30cm前後の黒褐色土で、色調の変化に乏しくⅠ層との違いはほとんどみられない、土器破片はこの層の下部から出土した。Ⅲ層はローム漸位層、Ⅳ層はソフトロームである。調査面積は39.0㎡である。



第5図 久保地尾根遺跡発掘区域図・地形図（1：2,500）



第6図 久保地尾根遺跡土器拓影・石器実測図（1～3 1：2、4 1：3）

## 5 遺構と遺物

遺構を検出するまでには至らなかったが、トレンチ調査で縄文時代の土器破片6点、石器は凹石1点と黒曜石の剥片1点が出土した。

図示した土器は中期後葉期の小破片3点(第6図1～3)、石器は輝石安山岩製の凹石1点(4)である。凹石は片手で容易に握ることができる重さ580gのもので側面には叩き痕がみられる。

## 6 まとめ

個人住宅建設という限られた狭い範囲の調査であるが、住居址が検出された第2次調査と第5・10次調査地点に挟まれていたこともあり、少なからず住居址と小竪穴の検出を期待していたが、いずれも検出するまでには至らず調査は終了した。

本調査から遺跡の性格を積極的に述べることはできないが、今までの調査成果からみると、環状集落址の一部にかかる地点のように見受けられる地点であり、なぜ、住居址も小竪穴も検出できなかったのか考えさせられる。

今後も開発は予想される地域であるが、本遺跡は10次におよぶ発掘調査の成果によって縄文時代中期後葉の集落址であることは明らかであり、注意深く見守っていくことが必要である。

### Ⅲ 出寺平遺跡 第2次発掘調査

#### 1 発掘調査の経過

個人住宅の建設に先立ち遺跡の照会があり計画を知ることになるが、たまたま予定地に出寺平遺跡(原村遺跡番号40)が所在していたため、その保護については関係者と数回にわたり協議を行った。

本来なら遺跡は現状のまま保存することが最も望ましいことであるが、住宅建設の要望は強く「記録保存やむなき」との結論に至り、平成19年度に緊急発掘調査を実施する方向で同意をみた。

その後も調査日程等の打ち合わせを行い、原村教育委員会は国庫から発掘調査補助金交付を受け、平成19年9月20日から10月4日に緊急発掘調査を実施した。

#### 2 発掘調査の経過

平成19年9月20日 発掘準備をはじめ。予定地の全景写真撮影を行う。

26日 現地で住宅建設位置を確認し、重機使用の日程、調査方法の打ち合わせを行う。

10月2日 トレンチ設定、引き続き重機でトレンチ1～4を掘削する。トレンチ内の観察では東に隣接する第1次調査地点と同様で、地表下30～50cmには数多い礫を包含する黒褐色土の堆積がみられた。遺物と遺構の検出につとめたが皆無である。当地方において、この礫を包含する黒褐色土中から遺構が確認されたことはないため、トレンチの位置測量、写真撮影を行い、重機で埋め戻しを行う。

4日 片付けを行い調査は終了する。

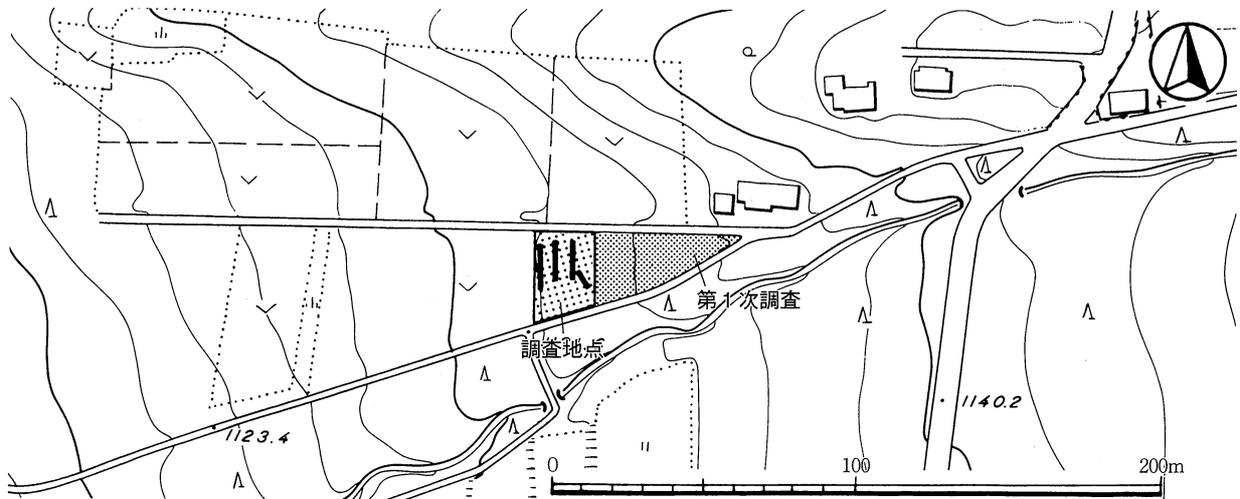
#### 3 位置と環境

出寺平遺跡(原村遺跡番号40 第2図)は、長野県諏訪郡原村上里区に所在する。

このあたりは八ヶ岳西麓に位置し、東西に細長く伸びた大小様々の尾根が幾筋も見られる。それらの尾根上から斜面には縄文時代と平安時代を中心とする数多い遺跡が点在している。

その一つである本遺跡は、八ヶ岳から流下する小早川の支流と前沢川によって南と北を浸蝕された東西に細長い尾根上から南斜面に立地していたと思われるが、対象地一帯は平坦面が広く、付近を概観すると、北側にはロームの壁が露呈しており尾根が削平されたことは明らかで、遺跡の多くはすでに破壊されているように思われる。南には享保9年(1724)に開削された坪の端汐があり、汐幅は広く地形が大きく変わっていることが考えられる。標高は1,132m前後を測り、地目は宅地、普通畑、道路などであるが、礫の散乱がみられ地味は良くない。なお、村内においては最も高所に位置する遺跡である。

調査対象地は、遺跡の東端に辺り、平成18年度に個人住宅建設に先立ち実施した第1次調査地点の西に隣接する。第1次調査では遺物・遺構を検出するまでに至っていないが、原村誌上巻では、平安時代の土師器・須恵器および灰釉陶器の破片が比較的多く採集されていることからみて、住居址の存在を推測している遺跡である。



第7図 出寺平遺跡発掘区域図・地形図（1：2,500）

## 4 調査方法と層序

対象地は第7図に示した住宅建設用地で、調査は住宅の基礎（ほぼ南北方向）に合わせたトレンチ1～3、水道管布設地にトレンチ4を設定し、重機で礫混じり褐色土の上面まで掘削したが、その巾はバケツ巾の1.0mである。なお、礫混じり褐色土を掘削しその下層の礫混じりローム層上面までとした所もある。第1次調査同様に遺物と遺構を検出するまでに至らず調査は終了した。

土層は、I層は10～17cmの黒色土（耕作土）であるが、色調はII層と明らかに異なることから盛土と思われる。II層は黄色味の強い礫混じりの褐色土で、礫は握り拳大から子どもの頭まで様々なものが多く包含されている。当地方でこの礫混じりの層から遺構を検出できたことはない。III層は礫混じりのロームで、礫は多くやはりII層同様に大小様々なものである。調査面積は50.2㎡である。

## 5 遺構と遺物

遺構と遺物を検出するまでには至らなかった。

## 6 まとめ

本調査では遺物・遺構の検出は皆無で、遺跡の性格については未だ不明である。しかし、第1次発掘調査の報告で述べたが、近くには蕨手刀を出土した鹿垣遺跡が所在し、付近一帯は『諏方大明神画詞』にみえる五月会押立御狩に係る地域であることが明らかになりつつあり、諏訪神社研究上においても重要な遺跡であると思われる。

今後も開発が予想される地域であるが、未だ遺跡の範囲が不明瞭なままである。できるだけ早い機会に明らかにするとともに注意深く見守る必要がある。

## Ⅳ 二枚田遺跡 第5次遺跡範囲確認調査

### 1 発掘調査の経過

平成18年度に畑地に客土する土取りに先立ち遺跡の照会があり計画を知ることになるが、すでに伐採は終了していた。

数回にわたり現地踏査を行うが尾根幅は広く遺跡範囲内に位置しているのか不明なままで、適切な保護処置ができる状態にはなく、第4次調査の報告で「宅地化が進んでいるが、未だ遺跡の西外縁部が明らかにできない状態である。今後も開発は予想されることであり、早急に遺跡の範囲を明らかにする必要がある。」と述べていることもあり、関係者と数回にわたり協議を行い平成19年度に範囲確認調査を実施する方向で同意をみた。

その後も調査日程等の打ち合わせを行い、原村教育委員会は国庫から発掘調査補助金交付を受け、平成19年1月15日から3月18日にわたり範囲確認調査を実施した。

### 2 発掘調査の経過

平成20年1月15日 発掘準備をはじめめる。

3月5日 現地で重機使用の日程、調査方法の打ち合わせを行う。

7日 予定地の全景写真撮影、機材の点検を行う。

8日 重機で調査対象地区の上物（下木）の取り除きを行い、トレンチ1～7を設定し重機で掘削をはじめめる。

10日 引き続き上物を取り除きトレンチの掘削、トレンチ内の観察、位置測量、写真撮影を行う。遺物・遺構を検出することはできない。12・13日も同様の作業を続ける。風倒木痕であるロームマウンドを確認する。

14日 重機で埋め戻しを行う。

18日 機材の片付けを行い調査は終了する。

### 3 位置と環境

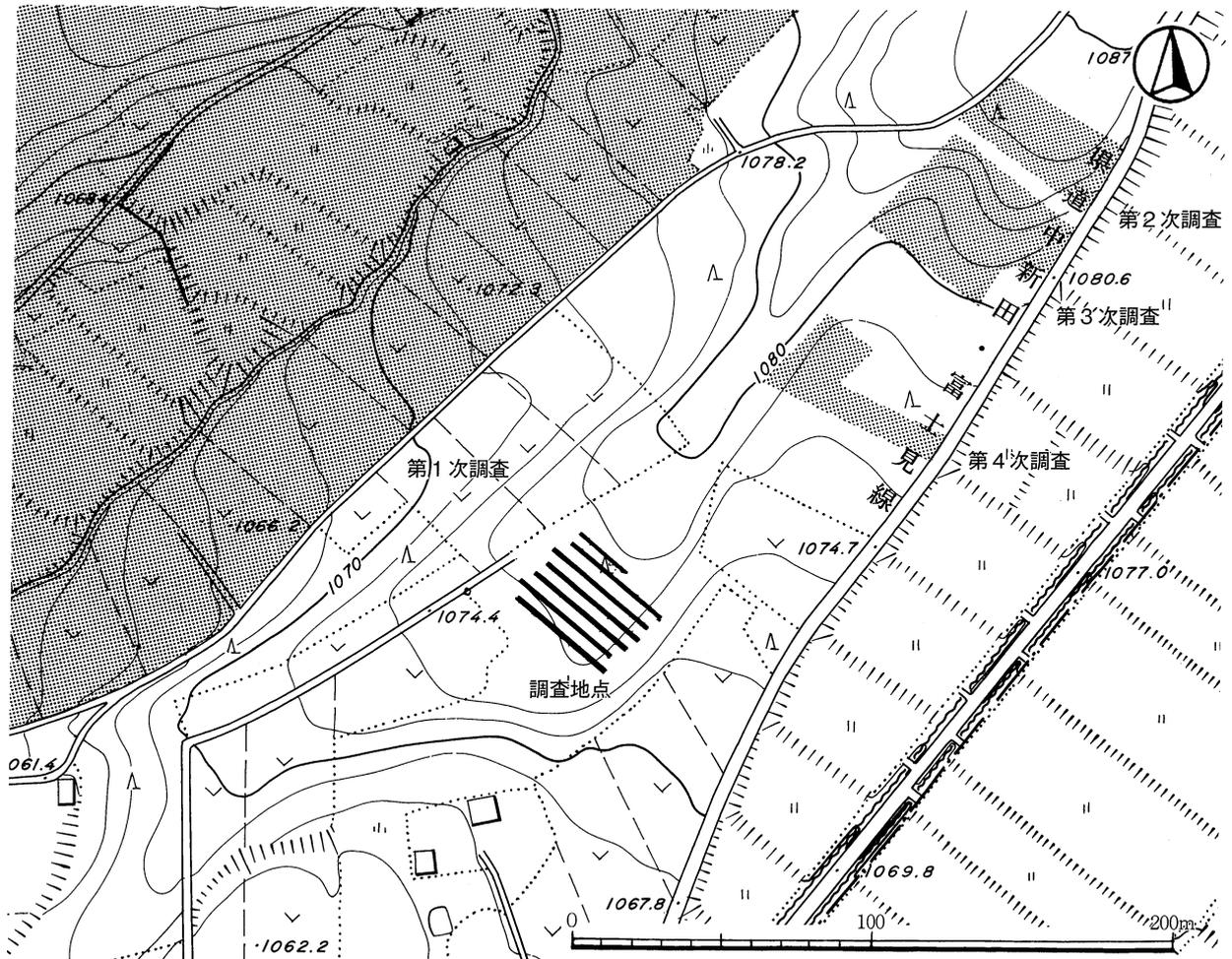
二枚田遺跡（原村遺跡番号67 第2図）は、長野県諏訪郡原村中新田区に所在する。

このあたりは八ヶ岳西麓に位置し、東西に細長く伸びた大小様々の尾根が幾筋も見られるが、それらの尾根上から斜面には縄文時代と平安時代を中心とする数多い遺跡が点在している。

その一つである本遺跡は、八ヶ岳から流下する富士見二の沢川と二枚田川によって南と北を浸蝕された東西に細長い尾根上から南斜面に立地している。

本調査地点は、第4次調査地点の西側に位置するが、標高は1,076m前後を測り村内においては高所に位置する遺跡である。地目は山林（すでに伐採されている）で地味は良い。

本遺跡における発掘調査は、平成10年度に実施した県営担い手基盤整備事業深山地区事業から5次を



第8図 二枚田遺跡発掘区域図・地形図（1：2,500）

数えるが、第2次と第3次調査で縄文時代中期初頭の住居址を検出したことで、当地方においては発見例が少ない縄文時代中期初頭の集落址であることがわかってきている。

#### 4 調査方法と層序

遺跡確認調査の対象地は第8図に示した土取を予定している所で、南北方向にトレンチ1～7を設定した。重機でローム層上面まで掘削したが、その巾はバケット巾の1.0mである

トレンチ内の観察を行い遺物と遺構の検出につとめたが、風倒木痕であるロームマウンドを2ヶ所で確認しただけで礫もなく、遺物と遺構を発見するまでには至らず調査は終了した。したがって、調査対象地域は遺跡から外れていることは明らかである。

土層は、I層は7～15cmの黒色土（表土）であるが、トレンチの南ほど薄くなり褐色が増している。II層は15～55cmの褐色土であるがやはり南側は堆積が少ない。III層はローム漸位層、IV層はソフトロームである。調査面積は260.4㎡である。

なお、本対象地域は遺跡から外れていたが、記録および写真などの整理の関係で二枚田遺跡第5次発掘調査と呼んでおきたい。

## 5 ま と め

尾根幅は広く縄文時代中期の遺跡に適しているようにみえたが、トレンチの掘削を行うと南は浅く、北が深くなり地山のロームは北西方向に強く傾いていることがわかる。この強い傾きが居住域に適していなかったように思われるが、村内では恩膳西遺跡と程久保遺跡の尾根上がやはり北西に傾き、小竪穴は検出できたが、住居址は南斜面に展開し尾根上には無く、居住域に選定していなかったことからもうなずけることである。

遺物の検出は皆無で遺跡から外れていることが明らかになる。

### 調査組織

平成19年度遺跡調査団名簿

事務局 原村教育委員会

教 育 長 望月 弘

教 育 課 長 百瀬 嘉徳

文化財係長 平出 一治

文化財係 平林とし美

調査団 団 長 望月 弘

調査担当者 平出 一治 (文化財係長)

調査参加者 発掘作業 鎌倉 光弥 小島久美子 小林 りえ 和田 孝幸

整理作業 小島久美子 小林 りえ

原村の埋蔵文化財72

**雁頭沢遺跡 (第13次) 久保地尾根遺跡 (第11次)**

**出寺平遺跡 (第7次) 二枚田遺跡 (第4次)**

平成19年度 個人住宅建設に先立つ雁頭沢遺跡第13次、久保地尾根遺跡第11次、出寺平遺跡第2次、遺跡範囲確認に伴う二枚田遺跡第5次緊急発掘調査報告書

発行日 平成20年3月

発 行 原村教育委員会  
長野県諏訪郡原村

印 刷 ほおずき書籍(株)

## 報告書抄録

ふりがな	がとざわいせき      くぼちおねいせき      でいでらいせき      にまいだいせき							
書名	雁頭沢遺跡（第13次） 久保地尾根遺跡（第11次） 出寺平遺跡（第2次） 二枚田遺跡（第5次）							
副書名	平成19年度 個人住宅建設に先立つ雁頭沢遺跡第13次、久保地尾根遺跡第11次、出寺平遺跡第2次、遺跡範囲確認に伴う二枚田遺跡第5次緊急発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	原村の埋蔵文化財							
シリーズ番号	72							
編著者名	原村教育委員会							
編集機関	原村教育委員会							
所在地	〒391-0192 長野県諏訪郡原村6549番地1      TEL 0266-79-7930							
発行年月日	西暦 2008年03月							
所収遺跡	所在地	コード		北緯度分秒	東経度分秒	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号					
雁頭沢	ながのけんすわぐん 長野県諏訪郡 はらむらむらうち 原村室内	3637	53	35度 57分 34秒	138度 12分 25秒	20070615 } 20070711	59.3	住宅建設
久保地尾根	ながのけんすわぐん 長野県諏訪郡 はらむらむらうち 原村室内	3637	57	35度 57分 31秒	138度 13分 1秒	20070720 } 20070725	39.0	住宅建設
出寺平	ながのけんすわぐん 長野県諏訪郡 はらむらかみさと 原村上里	3637	40	35度 58分 6秒	138度 14分 46秒	20070920 } 20071004	50.2	住宅建設
二枚田	ながのけんすわぐん 長野県諏訪郡 はらむらなかしんでん 原村中新田	3637	67	138度 56分 13秒	138度 14分 43秒	20080115 } 20080318	260.4	遺跡範囲確認
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
雁頭沢		縄文時代			中期土器破片、石器			
久保地尾根	包蔵地	縄文時代			中期土器破片、石器			
出寺平								
二枚田								
要約	雁頭沢遺跡は、すでにローム層に達する削平で遺物包含層は取り除かれていた。縄文時代中期の土器破片を採集しただけで遺構の検出はない。 久保地尾根遺跡は、僅かな縄文時代中期の土器破片と石器が出土したが遺構の検出はない。 出寺平遺跡は、遺物・遺構の検出はない。 二枚田遺跡は、遺物・遺構の検出はなく遺跡から外れていることが明らかになる。							